

指定管理者制度活用事業 評価シート(高齢センター)

1. 基本事項

施設名称	川崎市高齢社会福祉総合センター 「人材開発研修センター・保健福祉研究センター」	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 ・代表者名 会長 佐藤 忠次 ・住所 川崎市中原区上小田中6-22-5	評価者	高齢者事業推進課長
指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日	所管課	健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課

2. 事業実績

利用実績	(1)人材育成研修					
	介護職員初任者研修会	回数	定員	受講者数	修了者数	
	4社協共催トップセミナー※2	1	40	20	20	
	福祉職員向け現任研修	1	200	136	136	
	認知症研修	32	1,081	927	797	
	介護福祉士資格取得準備講習	6	264	250	246	
	介護福祉士資格取得準備講習	2コース	40	23	23	
	重度訪問介護従事者養成研修	全5回	20	9	9	
	予防給付ケアマネジメント従事者等研修	2日間	40	36	36	
	介護職員実務者研修	2コース	64	34	32	
※2 横浜市、神奈川県、相模原市、川崎市						
利用実績	(2)地域への普及啓発					
	福祉情報ミニ講座	回数	定員	参加者数		
	福祉用具講座	4	546	310		
	地域講座(出張講座)	1	30	7		
	介護講座	3	—	92		
	サポーター養成講座への支援	4	90	60		
	介護いきいきフェア	219	—	9,090		
	認知症講座(キャパハン・メイト養成研修)	1	600	750		
	認知症キャラバンメイト・フォローアップ研修	1	80	134		
		2	40	40		
福祉用具常設展示及び相談件数						
	展示数	電話相談	来所相談	研修生対応	展示見学	
	85	6	2	38	40	
介護・福祉資料等貸出						
	書籍・雑誌	ビデオ・DVD				
	蔵書数	貸出数	所有数	貸出数		
	福祉関係	2,329	26	455	20	
	医療・看護関係	425	15	68	13	
	その他	204	13	78	0	
	合計	2,958	54	601	33	
種類						
	保有数	利用者	利用数			
	視聴覚機材	9	29	42		
	高齢者疑似体験キット	5	0	0		
収支実績	(収入) (単位:円)		(支出) (単位:円)			
	指定管理料	82,864,000	人件費	41,523,651		
	利用料金	7,409,482	事務費	29,836,170		
	その他収入	38,829,641	事業費(人材開発研修センター)	19,471,272		
	収入計	129,103,123	事業費(保健福祉研究センター)	2,044,983		
			支出計	92,876,076		
			(収支差額)	3,634,018		
	サービス向上の取組					
	<p>○福祉・介護人材確保に向け重要とされている「キャリアアップの仕組みの構築」について厚生労働省告示の福祉人材確保指針に基づき全国社会福祉協議会が開発した「福祉職員キャリアパス対応生涯研修」の3階層(初任者職員、中堅職員、管理職)に新たにチームリーダーコースを加えて実施(受講率目標80%のところ86%を達成)。平成29年3月には平成29年度の研修計画等を盛り込んだ「研修受講ガイド」を新たに発行。当ガイドにおいて、4階層の特性の違いに応じ、研修で学んだことの振り返りを行うとともに、職場内、チームで報告を行うことを目的とした「研修報告シート」を開発し、研修受講前後に意識する内容をまとめ、受講者が学んだことを実践につなげるためのポイントを提示した。</p> <p>○認知症キャラバン・メイト養成研修修了者が28年度までの累計で916名、認知症サポーター養成講座受講者が累計41,980名とし、川崎市の「かわさきいきいき長寿プラン」の平成28年度目標値である認知症キャラバン・メイト養成研修修了者830名、認知症サポーター養成講座受講者の目標数31,400名を大きく上回る成果を上げた。</p> <p>○神奈川県指定の介護職員初任者研修において、28年度、新たに介護福祉士受験資格の要件となったことから介護職員実務者研修を2コース加えて実施。介護福祉士資格取得準備講習(介護福祉士国家試験対策講座)受講者23名のうち、受験番号を把握できたものだけでも合格率は82%を達成(17名中14名が合格。一般合格率は72%)。介護福祉士の養成に一定の成果をあげた。</p>					

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
適正な業務実施	人材育成研修	福祉の現場・時代のニーズ等に合わせた研修の提供が行われているか	10	4	8
		研修の実施回数・定員等は適切か			
	普及啓発講座等	地域・時代のニーズ等に合わせた講座等の提供が行われているか	10	4	8
		講座等の実施回数・定員等は適切か			
		福祉機器の展示・資料貸出等は、市民への介護の普及啓発として適切に行われているか			
事業の周知	利用促進のため効果的な事業の周知・広報等を行っているか	5	5	5	
関係機関等との連携	関係機関及び地域との連携を積極的に行っているか	5	5	5	
<p>(評価の理由)</p> <p>事前アンケートの結果を反映し、ニーズに即した研修の企画を行っている。受講者の利便性に配慮し、交通の便の良い外部会場の借り上げを多くして、高い受講率を維持している。</p> <p>福祉職員キャリアパス対応生涯研修について、27年度に実施した3コース(初任者職員、中堅職員、管理職)にチームリーダーコースを加えて4階層すべてにおいて実施、管理職コースを除いて講師も市内の福祉関係者に依頼してそれぞれのキャリアの段階に応じて求められる福祉・サービス従業者の資質や能力の向上をはかる研修を実施した。</p> <p>認知症介護サービスの質の向上を目的として、認知症介護実践者研修及び認知症介護実践リーダー研修に加えて、新たに認知症介護基礎研修を2コース実施した。</p> <p>介護福祉士資格取得準備講習(介護福祉士国家試験対策講座)受講者23名のうち、受験番号を把握できたものだけでも合格率は82%を達成するなど介護福祉士の養成に一定の成果をあげている。</p> <p>認知症サポーター養成講座は各区保健福祉センター、各地区健康福祉ステーション、地域包括支援センター等の関係機関・団体に積極的に働きかけ、普及啓発の取組支援にも力を入れ、219回開催、受講者数9,090名の実績を得た(前年度比 受講者数234名増。区分別では、学校関係が42件3,939名、職域関係が87件2,646名、住民関係が90件2,505名となっており、特に学校関係の伸びが前年度比19件1,778名の増加と顕著)</p> <p>福祉用具を身近に感じてもらうため新たに「いす式階段昇降機」や「防寒・撥水車いす用コート」、「なでなでねこちゃん」など、住宅設備や生活補助用具、ロボット介護機器まで幅広い展示及び展示品に関する各種相談、使用方法及び情報提供を行った。</p>					
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4
		指定管理料に見合う事業効果は得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか			
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	5	4	4
		収入増加のための具体的な取組が為されているか			
適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	5	4	4	
事業収支に関して適正な会計処理が為されているか					
<p>(評価の理由)</p> <p>市民や介護職等の現任職員のニーズを調査して研修を組み立て、受講率が100%を上回るなど、受講料収入の増加に繋がる取組を積極的に実施している。</p> <p>研修案内チラシや認知症サポーターグッズ等の送付において、料金後納郵便の特約ゆうメール等を利用して通信運搬費を減らし、管理経費の削減に努めた。</p> <p>広報に関する経費を削減するため、有料掲載を極力控え、広報誌への掲載を推進し、所管課と協力連携で溝口駅周辺にポスター掲示するなど、周知の効果を上げた。</p> <p>パソコンの入れ替えにあたり、パソコンリース等の業者について、競争入札により最低価格を示した業者に決定した。</p> <p>ガスメーターにデマンド計を設置したことによりガス料金の削減を図った。また、電気料金についても、吸収冷温水発生機のチューブ洗浄を行い削減した。</p> <p>金銭管理・会計手続については、現金の出し入れは特定の職員に行わせるようにし、金額確認は複数人によって実施して法人会計部署の回議を経る等、適切な管理に取り組んでいる。</p>					
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	5	4	4
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
	業務改善によるサービス向上	サービス向上のための取組がなされているか	10	4	8
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	10	4	8	
	意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)				
	利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
<p>(評価の理由)</p> <p>仕様書では、年間30回とした福祉職員現任研修を32回開催した。</p> <p>認知症についての理解を大きく広げるための活動を行い、219回の講座開催、受講者数9,090名の実績をあげた。(前年度比 受講者数234名増)</p> <p>福祉職員キャリアパス対応生涯研修について、27年度に実施した3コース(初任者職員、中堅職員、管理職)に新たにチームリーダーコースを加えて4階層すべてにおいて実施した。管理職コースを除き、講師は市内の福祉関係者の方に依頼。それぞれのキャリアの段階に応じて求められる福祉・サービス従業者ならではの資質や能力の向上をはかる研修を実施した。</p> <p>平成29年度に向け「研修受講ガイド」を作成し、川崎市高齢社会福祉総合センターのキャラクターを活用した親しみやすい周知、キャリアパス研修受講者にヒアリングを行い、研修で学んだことへの実践の成果等の把握と研修の企画、研修受講前後のフォローを目的とした「研修シート」の開発等を行った。</p> <p>研修ニーズや意見・要望については、研修事後アンケートに意見・要望欄を設けて把握に努めている。利用者からの苦情については、「川崎市社会福祉協議会苦情解決実施要綱」に基づいて対応。苦情は部署内で検討し即時改善に努めている。</p>					

組織管理体制	適正な管理体制の構築	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	5	4	4
		定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
		再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	5	4	4
		安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	4
	感染症への対策は適切に行われているか				
	実際に事故等が発生した場合の対応は適切であったか、また、再発防止の取り組みがなされたか。				
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
		個人情報の管理は適切に行われているか			
	<p>(評価の理由)</p> <p>必要な職員を配置し、研修機関として望ましい知識や技術習得のための研修や講座等へ、積極的に参加して職員のスキルアップを図っている。福祉職員キャリアパス対応生涯研修について、27年度に実施した3コース(初任者職員、中堅職員、管理職)にチームリーダーコースを加えて4階層すべてにおいて実施するにあたり、講師養成のため全国社会福祉協議会主催の「キャリアパス対応生涯研修指導者養成研修」に4名(センター職員2名、講師2名)を派遣した。</p> <p>感染症対策として、受付に手指消毒液、使い捨てマスクを設置し、予防に努めている。</p> <p>東日本大震災を教訓に、受講生用のヘルメットを常備。防災訓練は、特別養護老人ホーム長沢壮寿の里と共に年2回実施。</p> <p>川崎市社会福祉協議会の「災害発生時対応マニュアル」に基づき、部署ごとにBCP(災害時等事業継続計画)を策定して備えている。</p> <p>個人情報保護規程に基づき、入口にプライバシーポリシーを掲示しているほか、他施設実習を行う受講生への個人情報保護に関する指導、事務所内個人情報の定位置収納の徹底を図っている。</p>				
適正な施設管理	施設・設備の保守管理、清掃、整備等	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	10	6	6
		業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
		施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
		施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
		外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
		設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
		<p>(評価の理由)</p> <p>保守点検等を含め施設の管理を管理委託事業者に一元的に委託。月1回報告を受け、修繕が必要な場合は併設施設と協議を実施し、修繕前後の写真記録、現場の目視による確認を行うなど、適切に管理が行われている。</p> <p>研修用のノート型パソコンを研修に対応できる新機種に買い替え、備品シールを貼り適正に減価償却管理している。</p> <p>外構の植栽管理は市の委託業務により美観を保っている。作業前に、職員が近隣住宅を訪問し作業日を事前に周知して注意喚起している。</p> <p>備品等は、適切に管理し、消耗品については、在庫を常にチェックし、事業に支障を来さないよう迅速な補充を行っている。</p>			

4. 総合評価

評価点合計	80	評価ランク	A
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

川崎市の動向や制度改正を見据えて、関係機関とも連携調整を図りながら、介護・福祉の専門職としてふさわしい人材の育成、魅力ある研修の企画と事業の運営を行っている。創意工夫を凝らし、利用者に配慮した実践に取り組み、成果を上げている。

電気代や通信運搬費の縮減に向けた取組や、効果的な広報手段でフィードバックを行っている。

研修機関の職員教育として、望ましい知識や技術習得のための積極的な研修受講や、防災や経費削減等の取組に関して、併設施設との連携が図られている。

更なる充実した研修等の実施による人材育成を期待する。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

指導事項等なし